

まちぢから松林タイムス

平成三十一年
二月一日発行
茅ヶ崎松林地区
まちぢから協議会
広報部会

平成30年度松林地区市民集会開催

市民の要望に市が回答



昨年の十一月十六日に市民集会在松林地区まちぢから協議会の主催で行なわれました。佐藤市長や市の幹部職員が出席して地域住民と地域の現状や問題点を共有し、地域課題の解決に向けた話し合いが行われました。



細田まち協会長の挨拶
佐藤市長にとつては、この松林地区市民集会在が市長ご就任後初の市民集会だとうかがっています。
今日は市長、副市長、教育長、行政各部門の部長にご出席いただいています、活発な議論をお願いします。

新湘南バイパス高架下に公園を！

（住民からの要望）

- (1) 最近の子供の体力についてどのように考えているか。
- (2) 茅ヶ崎市の小・中学生の体力の現状はどのような状況か。
- (3) 学校教育での体力向上への取り組みはどのようなになっているか。
- (4) 新湘南バイパス高架下の眠っている地域資源の活用について、県道藤沢大



赤羽根地区の高架下

磯線の開通に向けた状況はどのようになっているか。また、高架下を公園として活用する要望に対する関係

機関の対応状況はどのように進んでいるか。

- (5) 高架下を公園に松林いきいきのびのびランドとする要望の実現に向けて行政が担う事項と地域が担うことはどのようなことが考えられるのか示して欲しい。

（市の回答）

- (1) について、体力水準が高かった昭和六十年頃と比較すると一部の種目を除いて低い状況にあり、運動する子とそうでない子の二極化が見られます。

- (2) について、「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」における茅ヶ崎市と全国の結果を比較すると、平均値を上回っている種目と下回っている種目が混在します。体を動かすことが好きな子供たちの育成を図れるように各学校を支援してまいります。
- (3) について、朝食の摂取状況や睡眠時間等の生活習慣が子どもの体力に深く関わっていることが報告されています。このことを踏まえ茅ヶ崎市では「生活習慣の改善」、「食習慣の改善」、「運動習慣の確立」の三つの視点から児童生徒の心身の健康

を育むための取り組みを推進しています。

- (4) について、新湘南バイパス高架下の利活用については、管理者である国土交通省と協議を重ねて、その可能性について模索しているところです。国土交通省からは、今後は中日本高速道路株式会社に管理を移管する予定であること、将来都市計画道路藤沢大磯線が整備される予定であること等、利活用には課題が多いことが指摘されています。また、高架下の利活用については、道路管理者や自治体、学識経験者等から構成される高架下等利用計画検討会に利活用方針、管理、運営方針、安全対策等を盛り込んだ利用計画を示していく必要があります。現在、国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所大磯出張所から横浜国道事務所本所に高架下の暫定利用を含めた利活用の可能性について上申しているところです。市としては引き

続き国に対して粘り強く柔軟な利活用について交渉を進めていきます。

- (5) について、新湘南バイパスのような高架道路は橋脚に支えられた構造であり、高架下の占有によって道路管理者の日常点検が困難になるため、占有主体が道路管理者に代わって橋脚の日常点検を実施する必要があります。そうしたことを踏まえ、行政が担う役割としては国との協議、調整や占有手続き、占有主体として橋脚の日常点検等の安全管理を担う必要があります。

また、地域が担う役割としては利活用についてのルール作りや整備方針、日頃の管理、運営方法等の検討が必要になります。いずれにしても高架下の利活用については市と地域が同じ方向性に向けて一体となって取り組んでいくことが大切で、今後、地域の皆さんと共に課題解決に向けて取り組んでまいります。

高齢者のための新たな交通手段を！

（住民からの要望）

- (1) 歩行困難な方に対して、介護予防・日常生活支

援総合事業サービスでの検討をお願いします。

- (2) 長い距離の歩行が困難

な方に対して、①予約型乗合バスの松林地区への検討、及びの路線バスへのシルバーパス導入の検討をお願いします。



(3)多くの人が出かけられる手段として、病院・スーパー・スパー銭湯などが所有するバスに利用者の希望する場所からも乗車できるように、市から依頼していただきたい。

【市の回答】

(1)について
今後、次期の高齢者福祉計画・介護保険事業計画に向けて、サービスDを含め、多様な担い手によるサービス提供について、既存の活動などの整合を図りながら導入の可否やその内容について検討してまいりたいと思います。

(2)の①について
茅ヶ崎市乗合交通整備計画「画」に基づくコミュニケーション

バス及び予約型乗合バスは公共交通空白地区を解消するために導入しました。これからの超高齢社会においては、公共交通空白地区とは関係なく市民の皆様の一歩を改めて把握し、それぞれの地域の特性にあったオーダーメイドの交通手段及び交通体系を構築する必要がありますと考えています。松林地区へ予約型乗合バスを導入することにつきましては、道路の状況、利用者数の把握、乗降場の位置、既存の公共交通との住み分け等の課題を整理した上で、地域の皆様と意見交換をさせていただきながら、予約型乗合バスに限らない新たな公共交通を共に構築してまいりたいと考えています。

(3)について
病院・スーパー・スパー銭湯などの事業者が運用している送迎バスを高齢者が希望する場所から利用することについては、事業者が道路運送法における許可または登録を要しない範囲で実施していること、乗客が希望する場所降乗する運行形態は道路運送法による許可等別途手続きが必要となること、無償有償を問わず旅客運送業を営む事業者へ与える影響が大きいこと

コミュニケーション施設建設要望

（住民からの要望）

コミュニケーション施設の建設については、松林地区の切実な重要課題として長年に亘り強く要望してまいりましたが、未だに建設地の見通しさえ立たず、今日に至っております。

松林地区では、まちぢから協議会設立とともに、部会活動を中心に地域の課題を積極的に解決すべく活動の幅を広げてまいりましたが、その拠点となる施設がないため、効果的な活動ができにくくなりつつあります。現状は公民館を最大限に活用するとともに、空き家の利活用によって対応し

などから、市が事業者へ依頼することは困難です。しかしながら、民間企業を含め、多様な主体との連携により課題を解決していくことは重要であることから、「高齢者のための優待サービス業」に協賛いただいているスーパー銭湯等へ、地域の声としてご要望があることをお伝えするほか、大型店連絡協議会等とも地域のニーズとして情報交換、情報共有を行ってまいります。

ておりますものの、限界でもあります。
地域の課題解決に向けて、包括支援センターやボランティアセンター又は地区社協など、諸団体と併せた行政窓口機能もあるコミュニケーション施設を、一刻も早く建設していただきたく、要望いたします。

（市の回答）

建設希望地として高田市営住宅跡地を提案します。
地域集会所施設の整備にあたっては、効率的な施設整備の観点から、近年施設した他地区と同様に既存公有地の活用による整備、既存建築ストックを活用しての

整備、既存他の施設との複合化による整備の三点を基本的な視点とした上で、地域の皆様が利用しやすい立地などを含めて検討してまいりました。

建設希望地として提案をいただいた高田市営住宅跡地については、厳しい財政状況の中で総合的に公共施設の再整備を推進していくため、平成二十一年に策定した「公共施設整備・再編計画」の中で「売却」とし、その売却益を見込んでの公共施設の整備・再編を位置づけており、そのため現段階でその方向性を変更することは困難であると考えます。

既存公有地の活用による整備を基本とし、松林地区内の公共施設の再整備を視野に入れて実現可能性の検討を庁内で進めています。今後については実現に向けた検討を進めて年度内（平成三十一年三月）に具体的な建設候補地をお示しします。

また、地域集会所施設に地域包括支援センターや地区ボランティアセンター、行政窓口機能の複合化を図ることについては今後の整備検討の中で併せて検討してまいります。行政窓口機能については平成二十三年に

佐藤市長の締め挨拶

定めた「窓口サービス提供のあり方」に沿ってサービス提供拠点の展開を図っており、この考え方に沿ってサービス提供を実施することとしていきますのでご理解をお願いします。



いきいき・のびのびランドについては前向きに調整を進めます。

高齢者の交通手段の問題については茅ヶ崎市だけでなく神奈川県全体の問題でもあり、神奈川県市長会などを通じて前向きに頑張っています。

コミュニケーション施設の建設については先ほど企画部から報告があったように年度内に建設候補地をお示しできるよう調整を進めます。今日はご苦労さまでした。